

科目名	統計・研究法									
科目名(英)										
単位数	2単位			時間数	30時間		担当者	園田剛之		
実施年度	2021年度			実施時期	後期		担当者実務経験	理学療法士として病院に勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 2年									
授業概要	統計学は、研究で得られたデータを客観的に解釈するために必要な知識である。本講義では、統計学で用いられる様々な分析方法を学ぶとともに、実際にデータを用いて分析していきます。本講義終了時には、基本的な統計学の知識・技術を身に付け、研究報告を正しく解釈できることが目標です。									
授業形式	講義：○			演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○	○				統計学で用いられる様々な分析方法を説明できる。				
	○	○				データを用いて分析を行うことができる。				
テキスト・教材 参考図書	15レクチャーシリーズ リハビリテーション統計学 石川 朗 他 監修 中山書店2019									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	オリエンテーション(統計学の基礎)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	2	データの尺度・標準偏差と標準誤差					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業資料のまとめを復習しておく。			
	3	パラメトリックとノンパラメトリック について					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業資料のまとめを復習しておく。			
	4	平均値を利用した検定					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業資料のまとめを復習しておく。			
	5	平均値以外を利用した検定					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業資料のまとめを復習しておく。			
	6	相関と回帰分析					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業資料のまとめを復習しておく。			
	7	ロジスティック回帰分析					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 授業資料のまとめを復習しておく。			
	8	文献抄読(文献検索)					授業資料のまとめを復習しておく。			
	9	文献抄読(グループ発表準備)					検索した文献を抄読し、発表資料をまとめる。			
	10	文献抄読(グループ発表準備)					検索した文献を抄読し、発表資料をまとめる。			
	11	文献抄読(グループ発表準備)					検索した文献を抄読し、発表資料をまとめる。			
	12	グループ発表					文献抄読 発表			
	13	グループ発表					文献抄読 発表			
	14	グループ発表					文献抄読 発表			
	15	全体復習とまとめ					これまでの授業資料を復習しておくこと			
評価方法	(1)国家試験に準じた小テストを数回実施する。(2)レポート・発表を実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験	◎	◎				80%			
	小テスト	○	○				10%			
	レポート・発表	◎	◎				10%			
履修上の注意										

科目名	整形外科科学									
科目名(英)	Orthopedic Surgery									
単位数	1単位			時間数	30時間		担当者	九州大学整形外科教室		
実施年度	2021年度			実施時期	後期		担当者実務経験	医師として病院勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 2年									
授業概要	整形外科の基礎知識、各種治療法、整形外科疾患について理解する。整形外科疾患とリハビリテーションとの関わりについて理解し、臨床実習で必要な知識を習得する。									
授業形式	講義：○			演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○	○				整形外科疾患に関する基礎知識について説明できる。				
	○	○				整形外科における各疾患の成り立ちや臨床像を説明できる。				
	○	○				整形外科疾患の日常生活上での身体的制約が説明できる。				
	○	○				リハビリテーションにおいてセラピストが関わる整形外科疾患の治療実践を説明できる。				
テキスト・教材 参考図書	教科書：「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科学」(最新版) 医学書院									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	整形外科概論（整形外科とは、運動器の評価及び検査法、治療法）					テキストを用いた復習			
	2	骨折 1（上肢の骨折：受傷機転、病態、治療）					テキストを用いた復習			
	3	骨折 2（体幹・下肢の骨折：受傷機転、病態、治療）					テキストを用いた復習			
	4	脊髄損傷					テキストを用いた復習			
	5	関節における外傷性疾患（捻挫(TFCC)、脱臼（肩・肘・股関節など）					テキストを用いた復習			
	6	末梢神経における外傷性疾患 1（外傷性疾患各論）					テキストを用いた復習			
	7	末梢神経における外傷性疾患 2（絞扼性神経障害・その他）					テキストを用いた復習			
	8	腱・靱帯における外傷性疾患（筋・腱・靱帯の概論、腱板断裂、手の腱損傷）					テキストを用いた復習			
	9	スポーツ障害（スポーツ障害の概論、急性・慢性のスポーツ外傷）					テキストを用いた復習			
	10	熱傷、切断と離断（熱傷の病態、治療、切断・離断の原因、部位、義肢、その他）					テキストを用いた復習			
	11	先天性骨・関節疾患（代表的な疾患とその特徴）					テキストを用いた復習			
	12	循環障害と壊死性疾患（骨壊死、骨端症など）					テキストを用いた復習			
	13	骨・軟部腫瘍					テキストを用いた復習			
	14	神経・筋疾患（脳性麻痺、神経麻痺）					テキストを用いた復習			
	15	脊椎の疾患（脊柱の変形、奇形、椎間板ヘルニア）					テキストを用いた復習			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
				言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	定期試験(筆記)			◎	◎				100%	
履修上の注意										

科目名	神経内科学Ⅱ						
科目名(英)	Neurological MedicineⅡ						
単位数	1単位		時間数	30時間		担当者	片伯部 裕次郎
実施年度	2021年度		実施時期	後期		担当者実務経験	医師として病院勤務
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 2年						
授業概要	・理学療法に関わる障がい、どのような疾患から起因するかを知る。 ・神経内科疾患の成り立ちを知ることで、患者分析に必要な生理学的見解が出来るようになる。 ・神経内科疾患の症状を理解することで、理学療法治療上でのリスク管理を理解する。						
授業形式	講義： ○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				神経内科疾患の現状を説明できる。	
	○	○				神経内科における各疾患の特徴が説明できる。	
	○	○				神経内科疾患の日常生活上での身体的制約が説明できる。	
	○	○				理学療法士が関わる神経内科疾患の治療実践を説明できる。	
	○	○				理学療法の中で神経内科疾患治療の必要性を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 医学書院 PT・OT基礎から学ぶ神経内科学ノート 医歯薬出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	頭蓋内圧亢進症と脳ヘルニア、水頭症				教科書で予習しておく。	
	2	脳血管障害Ⅰ、(疫学、分類、合併症、症状、治療)				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	3	脳血管障害Ⅱ、診断(臨床症状による)、リハビリ訓練				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	4	認知症、記憶障害				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	5	脳腫瘍と外傷性脳損傷				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	6	神経内科と脊髄疾患(神経内科領域、脊髄損傷)				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	7	変性疾患、脊髄小脳変性症関連(小脳症状解説)				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	8	変性疾患、運動神経変性(筋萎縮性側索硬化症など)				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	9	脱髄性疾患、多発性硬化症				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	10	パーキンソン病と失調症、不随意運動				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	11	単神経麻痺、末梢性ニューロパチー、ギランバレー症候群				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	12	筋疾患、筋炎、筋ジストロフィー症				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	13	重症筋無力症、周期性四肢麻痺、代謝性疾患				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	14	神経内科における感染症				まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	15	授業総復習とまとめ				神経概要のまとめの講義より病態の理解を図る。	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	小児科学									
科目名(英)	Pediatric science									
単位数	1単位		時間数	30時間		担当者	石村 匡崇(九州大学小児科)			
実施年度	2021年度		実施時期	後期		担当者実務経験	医師として病院勤務			
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 2年									
授業概要	小児の体、発達について理解し、小児リハビリテーションに関わる医学的知識を身につける。									
授業形式	講義：○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○	○				新生児・未熟児の疾患について説明できる				
	○	○				先天異常と遺伝病について説明できる				
	○	○				小児期の神経系疾患について説明できる				
	○	○				小児期の筋・骨格系疾患について説明できる				
	○	○				小児期の循環器・呼吸器・消化器疾患について説明できる				
テキスト・教材 参考図書	教科書：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 小児科学第5版									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	第1章 小児科学概論1 発達・成長・栄養・摂食					教科書で範囲の予習をしておく。			
	2	第1章 小児科学概論2 保健 第2章 診断					教科書で範囲の予習をしておく。			
	3	第3章 新生児・未熟児疾患1 Apgar・IUGR・未熟児					教科書で範囲の予習をしておく。			
	4	第3章 新生児・未熟児疾患2 周産期異常・脳室周囲・内出血					教科書で範囲の予習をしておく。			
	5	第4章 先天異常と遺伝病1 メンデルの法則・エピゲノム					教科書で範囲の予習をしておく。			
	6	第4章 先天異常と遺伝病2 染色体異常・奇形・先天代謝異常					教科書で範囲の予習をしておく。			
	7	第5章 神経・筋・骨系疾患1 感染症・脳症・ADEM・CNS奇形					教科書で範囲の予習をしておく。			
	8	第5章 神経・筋・骨系疾患2 先天性CNS疾患・てんかん・脳性麻痺					教科書で範囲の予習をしておく。			
	9	第5章 神経・筋・骨系疾患3 精神発達遅延・筋ジストロフィー					教科書で範囲の予習をしておく。			
	10	第6章 循環器疾患 第7章 呼吸器疾患					教科書で範囲の予習をしておく。			
	11	第8章 感染症 14章 腫瘍性疾患 第15章 習癖・睡眠関連病態・心身医学的疾患・虐待					教科書で範囲の予習をしておく。			
	12	第9章 消化器疾患 第10章 内分泌・代謝疾患					教科書で範囲の予習をしておく。			
	13	第11章 血液 第12章 免疫・アレルギー疾患、膠原病					教科書で範囲の予習をしておく。			
	14	第13章 腎・泌尿器系・生殖器疾患 第16章 重症心身障害児 第17章 眼科・耳鼻科的疾患					教科書で範囲の予習をしておく。			
	15	授業総復習					教科書で範囲の予習をしておく。			
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%			
履修上の注意										

科目名		保健医療福祉制度論					
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	山川 泰		
実施年度	2021年度	実施時期	後期	担当者実務経験	社会福祉士として福祉分野に従事		
対象学科・学年		理学療法学科 夜間部 2年					
授業概要		保健・医療だけではなく、社会保障・社会福祉の理念と制度を体系的に学ぶ。さらに、保健・医療・福祉の法制度の現状と課題についての認識を深めるとともに、生活問題・社会問題把握の視点を習得する。					
授業形式	講義： ○	演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				社会保障・社会福祉について理念を体系づけて説明ができる	
	○	○				それぞれの制度について、その対象と制度の代表的な内容について説明ができる	
	○	○				それぞれの制度の利用にあたっての窓口と例外について説明ができる	
	○	○				それぞれの制度の連携した利用について説明ができる	
テキスト・教材 参考図書	教科書：保健医療福祉制度論 府川哲夫・磯部文雄(著) (ミネルヴァ書房) 参考文献：よくわかる社会福祉 (ミネルヴァ書房) よくわかる医療福祉(ミネルヴァ書房)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	社会保障・社会福祉の理念と体系 1				配布資料を読みなおして、不明な用語について調べる。	
	2	社会保障・社会福祉の理念と体系 2				配布資料を読みなおして、不明な用語について調べ、復習及び予習する。	
	3	社会保障・社会福祉の発展				配布資料を読みなおして、不明な用語について調べ、復習及び予習する。	
	4	公的扶助 生活保護制度				配布資料を読みなおして、不明な用語について調べ、復習及び予習する。	
	5	こどもと家庭福祉の現状と課題 1				配布資料を読みなおして、不明な用語について調べ、復習及び予習する。	
	6	こどもと家庭福祉の現状と課題 2				配布資料を読みなおして、不明な用語について調べ、復習及び予習する。	
	7	障がい者福祉の現状と課題 1				配布資料を読みなおして、不明な用語について調べ、復習及び予習する。	
	8	障がい者福祉の現状と課題 2				配布資料を読みなおして、不明な用語について調べ、復習及び予習する。	
	9	高齢者福祉・介護保険 1				配布資料を読みなおして、不明な用語について調べ、復習及び予習する。	
	10	高齢者福祉・介護保険 2				配布資料を読みなおして、不明な用語について調べ、復習及び予習する。	
	11	衛生・保健サービス				配布資料を読みなおして、不明な用語について調べ、復習及び予習する。	
	12	保健・医療制度の現状と課題1				配布資料を読みなおして、不明な用語について調べ、復習及び予習する。	
	13	保健・医療制度の現状と課題2				配布資料を読みなおして、不明な用語について調べ、復習及び予習する。	
	14	保健・医療制度の現状と課題3				配布資料を読みなおして、不明な用語について調べ、復習及び予習する。	
	15	保健・医療制度の現状と課題4				配布資料を読みなおして、不明な用語について調べ、復習及び予習する。	
評価方法	(1)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				80%
	宿題・レポート	○	○				20%
履修上の注意							

科目名	運動療法学Ⅰ											
科目名(英)												
単位数	1単位		時間数		30時間		担当者		山口 寿			
実施年度	2021年度		実施時期		後期		担当者実務経験		理学療法士として病院勤務			
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 2年											
授業概要	リハビリテーション医学において、理学療法は治療的側面が物理療法と運動療法に大別される。理学療法は本来治療医学に属し、物理的手段を用いた治療法を特徴とする。運動を通しての理学療法の効果も含め実技多く取り入れ実践的な授業を行っていく。											
授業形式	講義: ◎		演習:		実習:		実技: ○		※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
	○	○				理学療法における運動療法の位置づけ、方法論を説明できる。						
	○	○				運動療法の定義、目的、種類を説明できる。						
	○	○	○	○		関節可動域制限に対する評価と治療の理論を説明し実践できる。						
	○	○	○	○		関節可動域制限の因子について列挙し理解し説明できる。						
テキスト・教材 参考図書	教科書: 1)市橋則明 編:運動療法学 第2版 障害別アプローチの理論と実際. 文光堂											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	運動療法総論・関節の構造の復習 関節の構造・伸びる組織・伸びにくい組織					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。 運動学の復習を行っておくこと。					
	2	関節可動域運動 総論(種類と目的)・他動関節可動域運動					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。					
	3	他動関節可動域運動① 上肢・下肢					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。					
	4	伸張運動①:伸張運動の生理学的機序・実際					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。					
	5	伸張運動②:下肢 ハムストリングス・大殿筋・大腿四頭筋					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。					
	6	伸張運動③:下肢 下腿三頭筋・股関節内転筋群 他					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。					
	7	伸張運動④:体幹・頸部					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。					
	8	中間テスト					授業資料のまとめを復習しておく。					
	9	関節モビライゼーション①:目的・方法					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。					
	10	関節モビライゼーション②:実際 上肢					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。					
	11	関節モビライゼーション③:実際 下肢					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。					
	12	関節可動域測定結果の解釈とアプローチの実際①					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。					
	13	関節可動域測定結果の解釈とアプローチの実際②					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。					
	14	実技の振り返り					動画を確認し実技内容を学生間で練習し実技試験に臨むこと。					
	15	授業総復習					これまでの講義内容を復習し、理解しておくこと。					
評価方法	(1)単元のまとめとして中間テストを実施する。 (2)定期試験(実技、筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験(筆記)	○		○		○						80%
	中間テスト	○		○								20%
履修上の注意	定期試験には実技試験も含みます。											

科目名	物理療法学Ⅰ									
科目名(英)	Physical AgentsⅠ									
単位数	1単位		時間数	30時間		担当者	仲吉 功治			
実施年度	2021年度		実施時期	後期		担当者実務経験	理学療法士として病院勤務			
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 2年									
授業概要	物理療法の定義や分類を学習し、理学療法における物理療法の位置づけを理解する。また物理療法で適応の多い炎症、それらに対する物理療法の考え方を学ぶ。温熱・寒冷・水治療法の特性・生理学的作用を学び適切な使用方法を学ぶ。									
授業形式	講義： ○		演習：		実習：		実技： △		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○	○				理学療法における物理療法の位置づけを理解し説明できる。				
	○	○				物理療法の適応の多い病態について理解し説明ができる。				
	○	○				各物理療法の種類・定義・目的を説明することができる。				
	○	○				各物理療法の治療効果、適応、禁忌の説明ができ、適切に実施できる。				
テキスト・教材 参考図書	吉田秀樹 編：Cross link理学療法学テキスト 物理療法学									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	オリエンテーション・物理療法導入(機器体験)					シラバス、期末試験範囲の確認			
	2	物理療法導入(水治療法実践)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	3	物理療法概論・物理療法の分類					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	4	水治療法①(水の物理的特性・生理学的作用・適応・禁忌)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	5	物理療法の適応の多い病態①(炎症・組織修復)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	6	寒冷療法①(概論・寒冷療法の生理学的作用)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	7	寒冷療法②(寒冷療法実技)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	8	中間テスト					これまでの授業資料のまとめを復習しておくこと			
	9	温熱療法①(概論・熱物理学)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	10	温熱療法②(温熱療法の生理学的作用)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	11	温熱療法③(ホットパック・パラフィン)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	12	温熱療法④(超短波・極超短波)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	13	温熱療法⑤(超音波)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	14	国家試験問題					これまでの授業資料のまとめを復習しておくこと			
	15	授業総復習					これまでの授業資料のまとめを復習しておくこと			
評価方法	(1)授業の中で中間テストを実施する。 (2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験(筆記/実技)	◎	○				80%			
	中間テスト	◎	○				20%			
履修上の注意										

科目名	日常生活活動学Ⅱ						
科目名(英)	Activiteis of Daily Living Ⅱ						
単位数	1単位		時間数	30時間	担当者	花田 穂積	
実施年度	2021年度		実施時期	後期	担当者実務経験	理学療法士として病院に勤務	
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 2年						
授業概要	1. 日常生活におけるセルフケアの役割について理解する 2. 日常生活を支援する機器について理解する 3. 疾患別日常生活の障害について理解する 4. 日常生活活動訓練について理解する						
授業形式	講義: ○		演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				日常生活におけるセルフケアの役割について学び、意義を説明することができる	
	○	○				日常生活の活動別に福祉用具と自助具を整理し、ADL動作に関係づけることができる	
	○	○				各疾患による障害がADLに与える影響について説明することができる	
テキスト・教材 参考図書	メジカルビュー社: Crosslink 理学療法テキスト 日常生活活動学						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	ADL概要				教科書の予習をしておく。	
	2	施設見学(ふくふくプラザ)				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	3	施設見学(ふくふくプラザ)				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	4	疾患別セルフケア① 中枢神経障害(片麻痺) 概要 基本動作(寝返り・起き上がり)ブ活動(セルフケア動作)				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	5	疾患別セルフケア② 中枢神経障害(片麻痺) 概要 基本動作(寝返り・起き上がり)ブ活動(セルフケア動作)				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	6	疾患別セルフケア① パーキンソン病:概要 基本動作(寝返り・起き上がり)ブ活動(セルフケア動作)				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	7	疾患別セルフケア① 運動失調:概要 基本動作(寝返り・起き上がり)ブ活動(セルフケア動作)				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	8	疾患別セルフケア① 脊損:概要 基本動作(寝返り・起き上がり)ブ活動(セルフケア動作)				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	9	疾患別セルフケア② 脊損:概要 基本動作(寝返り・起き上がり)ブ活動(セルフケア動作)				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	10	疾患別セルフケア① 脊損:概要 基本動作(寝返り・起き上がり)ブ活動(セルフケア動作)				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	11	疾患別セルフケア① 関節リウマチ:概要 基本動作(寝返り・起き上がり)ブ活動(セルフケア動作)				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	12	疾患別セルフケア① その他の疾患:概要 基本動作(寝返り・起き上がり)ブ活動(セルフケア動作)				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	13	疾患別ADL 国試問題と解説				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	14	疾患別ADL 国試問題と解説				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	15	日常生活活動学 授業総復習				今までの総復習をしておく。	
評価方法	(1)レポート、小テストを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				70%
	小テスト	○	○				10%
	宿題・レポート	○	○				10%
	発表	○	○		○		10%
履修上の注意							

科目名		生活環境学										
科目名(英)												
単位数		1単位		時間数		30時間		担当者		千原 麻衣子		
実施年度		2021年度		実施時期		後期		担当者実務経験		病院で理学療法士として勤務		
対象学科・学年		理学療法学科 夜間部 2年										
授業概要		超高齢社会の中で、地域で安全に暮らしていく為に、住環境は一つの重要な要因となっている。基本的な疾患別の特徴を踏まえた生活環境に対する整備の視点を基本的な用語、考え方、提案方法について紹介する。										
授業形式		講義： ○			演習： △		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)		言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
		○	○				高齢者・障害者を取り巻く環境について、また制度(介護保険)について説明できる。					
		○	○				住環境を整備する為の基本的知識を利用して基本的な住環境整備ができる。					
		○	○		○		理学療法士の視点から環境整備が実践でき、その提案が可視化できる。					
テキスト・教材 参考図書		福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト<改訂5版>										
授業計画		回数	授業項目・内容						授業外学修指示			
		1	オリエンテーション						特になし			
		2	高齢者を取り巻く社会状況と住環境						テキストの該当部分を読んでおきましょう			
		3	障害者を取り巻く社会状況と住環境						テキストの該当部分を読んでおきましょう			
		4	住環境整備とケアマネジメント、福祉住環境整備の進め方、相談援助の実践的な進め方						テキストの該当部分を読んでおきましょう			
		5	福祉住環境整備の共通基本技術						テキストの該当部分を読んでおきましょう			
		6	生活行為別福祉住環境整備の手法						テキストの該当部分を読んでおきましょう			
		7	生活行為別にみた福祉用具の活用						テキストの該当部分を読んでおきましょう			
		8	福祉住環境整備の実践に必要な基礎知識						課題の提出をします			
		9	平面図の作図						特になし			
		10	高齢者に多い疾患別にみた福祉住環境整備						テキストの該当部分を読んでおきましょう			
		11	障害別にみた福祉住環境整備						テキストの該当部分を読んでおきましょう			
		12	高齢者(障害者)の心身の特性、在宅介護での目立支援のあり方						テキストの該当部分を読んでおきましょう			
		13	グループワーク						該当疾患や環境について熟考しましょう			
		14	症例発表						該当疾患や環境について熟考しましょう			
		15	まとめ									
評価方法		(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業の中で発表を行う 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合				
		定期試験	◎	○				70%				
		小テスト	○	◎		○		30%				
履修上の注意		福祉住環境コーディネーター検定試験の受験を勧めます。										

科目名	理学療法基礎演習						
科目名(英)	Clinical Education Basic						
単位数	1単位		時間数	45時間		担当者	理学療法学科教員
実施年度	2021年度		実施時期	後期		担当者実務経験	理学療法士として病院勤務
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 2年						
授業概要	早期臨床体験実習の位置づけであり、見学と体験を通し、医療人としての態度・振る舞いを身につけ、医療・介護・福祉のなかでの理学療法士の役割と位置付けを学ぶことを目的とする。						
授業形式	講義:		演習:	○	実習:	実技:	○ ※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		臨床現場の理学療法士や他部門の仕事を見学し、仕事の内容を説明できる。	
	○		○	○		対象者への検査・測定の一部実施ができる。	
	○	○	○	○		理学療法士としての将来像をイメージすることができる。	
テキスト・教材 参考図書	解剖、生理 運動学の各講義のテキスト						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	・事前セミナー 2022年1月31日～2月5日 ・コミュニケーション技法(OSCE) ・ROM/MMT実技練習 ・介助法実技練習など ・リスクマネジメントについて					
	2						
	3						
	4						
	5						
	6						
	7	・基礎演習期間 2022年2月 7日～2月12日 2022年2月14日～2月19日 ※上記期間のうちいずれか一週間 施設の就業規定に応じて(5日/週を基本とする)					
	8						
	9						
	10						
	11	・事後セミナー 2022年2月21日～2月26日 ・施設で学んだことを発表 ・理学療法士の仕事について発表					
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	・事前セミナー:OSCEおよび実力テストなどを実施 ・基礎演習:実習状況報告書など ・事後セミナー:実習課題提出と発表会を実施 成績評価基準は上記成績を総合的に判定して、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実力テスト	○	◎				50%
	レポート 発表	○	○		○		50%
履修上の注意	デイリーノートの提出をもって出席とする。 1/3以上の欠席は評価の対象とならない。						

科目名	評価学Ⅲ						
科目名(英)	Evaluation Ⅲ						
単位数	2単位		時間数	60時間		担当者	木村孝・松崎 哲治
実施年度	2021年度		実施時期	後期		担当者実務経験	病院にて理学療法業務での患者評価など
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 2年						
授業概要	1. 運動機能検査の神経学的な理論を説明できる。 2. 運動機能検査の臨床的意義を知り、実際に施行できる。 3. 理学療法評価の統合と解釈を理解することができる。						
授業形式	講義:		演習:	△	実習:	実技:	○ ※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				運動機能検査の神経学的な理論を説明できる	
	○	○	○			運動機能検査の臨床的意義を知り、実際に施行できる。	
	○	○				疾患別の評価の特徴を理解し、まとめることができる	
		○				理学療法評価の統合と解釈をとらえることができる	
				○		安全に配慮して実習を行うことができる	
テキスト・教材 参考図書	1) 潮見泰臈、下田信明:リハビリテーション基礎評価学第1版. 羊土社, 2014. 2) 田崎義明、斉藤佳雄:ベッドサイドの神経の診かた. 南山堂						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	授業オリエンテーション 評価学演習総論					教科書の予習をしておく。
	2	脳血管障害総論① : 脳血管障害の種類 脳血管障害総論② : 脳血管障害の臨床所見					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。
	3	片麻痺運動機能検査① : 中枢性運動麻痺とは？ 片麻痺運動機能検査② : Brunnstrom Recovery Stage					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。
	4	筋緊張検査① : 異常筋緊張とは？ 筋緊張検査② : 検査法					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。
	5	反射検査① : 表在反射、深部反射、病的反射とは？ 反射検査② : 検査法					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。
	6	感覚、疼痛検査① : 感覚障害とは？ 感覚の伝導路 感覚、疼痛検査② : 検査法					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。
	7	中間テスト					これまでの復習テスト
	8	バランス機能、姿勢反射① : バランス機能とは？ バランス機能、姿勢反射② : 姿勢反射の検査法					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。
	9	脳神経検査① : 12脳神経の種類 脳神経検査② : 検査法					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。
	10	高次脳機能検査① : 失行、失認、失語の臨床所見 高次脳機能検査② : 検査法					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。
	11	測定結果の統合と解釈① : 症例 初期情報 測定結果の統合と解釈② : 症例 仮説					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。
	12	測定結果の統合と解釈③ : 症例 問題点、Goal設定、プログラム立案 測定結果の統合と解釈④ : 症例 まとめ					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。
	13	国家試験対策 演習問題①					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。
	14	実技総復習① 実技総復習②					授業資料のまとめを復習しておく。
	評価方法	15	総まとめ				
(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記・実技)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験		◎	○	◎			80%
小テスト					○		20%
宿題・レポート							
発表・作品							
履修上の注意							